

中川運河整備基本計画の概要

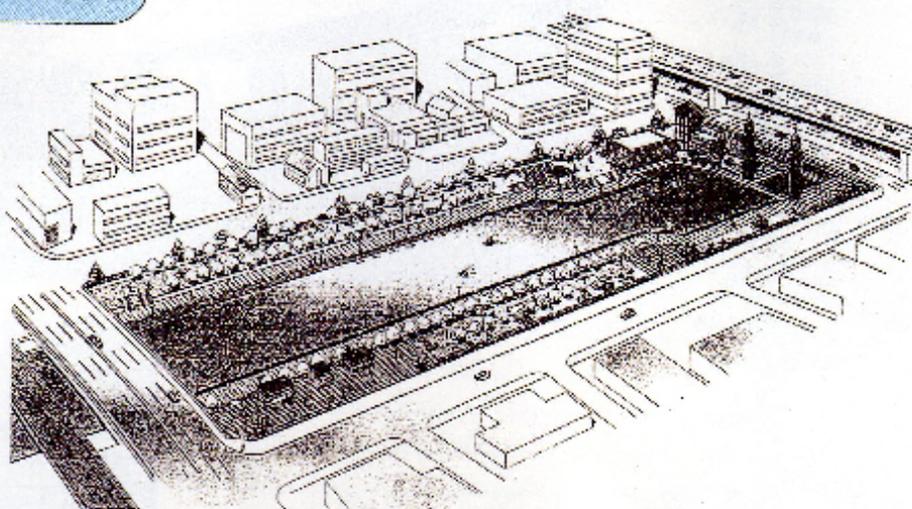
中川運河は昭和7年に全線が完成して以来、名古屋港と都心を結ぶ物流幹線として重要な役割を果たしてきましたが、物流形態の変化による水運利用の低下や護岸、物流施設の老朽化が進んできました。このため、水運利用の活性化や都心に近接した立地特性を生かした高度な物流空間として整備していく必要が生じてきました。また、市街地における貴重な水辺空間としての新たな利用も求められてきました。こうした背景から、港湾物流機能、親水・治水機能など基本的な方向を示すマスタープランとしての整備基本計画を名古屋市及び名古屋港管理組合が共同して取りまとめ、平成5年3月に公表しました。

目 標

親水性に満ちたウォーターフロントの創造

高度な物流空間の形成

安全なまちづくり



コンセプト

港と都心を結ぶ快適な水辺環境軸の形成

機能分野別計画

機能分野		整備方針
水域利用	物流空間の再編・高度化	運河筋に分散している物揚場及び倉庫・運輸業並びに卸・小売業の集約・再配置をすすめるとともに、物流機能の強化のための基盤整備を促進する。
	水上交通の誘導	運河の水運機能を活用して、観光、レクリエーション等の利用を対象とした都心と港を結ぶ水上交通の誘導を図る。
防	賑わい空間の形成	人々がくつろぎ、楽しめる空間の形成、また、水辺の市民開放や水域の活性化を図るため、アメニティ施設の誘導やウォータースポーツ・レクリエーション施設の整備を推進する。
防災	治水機能の向上	運河を地域排水の根幹的施設と位置づけ30年に1回程度降る雨（1時間76mm）に対処できる水準で整備し、背後市街地の治水安全度の向上を図る。また、運河の持つ雨水貯留能力の強化を図る。
	防災ネットワークの形成	緊急時の輸送経路として運河の利用を図るとともに、運河空間の持つ防火・延焼遮断帯としての機能の強化支援や水際遊歩道と避難路とのネットワーク化を図る。
環境整備	水辺環境の整備	水辺の持つ特性を活かした親水緑地や運河全域を巡らせた水際遊歩道（護岸を概ね5m水域にだす）の整備により、人々がいきいき、交流できる豊かな親水空間の創出を図る。
	水質の浄化	中川運河のイメージを向上させるため、浄化対策の総合的な実施により水質の改善を図り、環境基準の恒常的な達成を図る。
	景観の形成	水面と沿岸が調和した水際景観を創出するとともにランドマーク等の視覚的演出を図る。また、色彩やデザイン、夜景等に配慮した効果的な演出を図る。

拠点整備地区と整備状況（イメージ）



●堀止地区 整備イメージ



●小栗橋緑地整備



●小碓運河護岸整備



●中川口西遊歩道整備



●松重間門公園整備



●昭和橋橋詰緑地整備



●中川口地区 整備イメージ